

平成 25 年度 消火設備機器等劣化調査・検討委員会 活動報告（概要）

平成 26 年 6 月
一般社団法人 日本消火装置工業会

1. 委員会

(1) 調査・検討項目

設置期間は 5 年とし、調査・検討項目は以下の通りである。

- ①劣化機器の評価方法および基準の策定
- ②消火設備機器等の劣化状況の調査・データ収集
- ③劣化機器に対する評価の実施
- ④劣化機器に対する更新制度の策定
- ⑤その他

(2) 委員構成

13 社 14 名と消防関係 2 機関 2 名の計 16 名で構成

(3) 開催回数

第 30 回（6 月 14 日）～第 37 回（3 月 14 日）まで、8 回開催した。

2. 劣化機器の回収作業

本年度は、委員会回収グループが直接回収作業を行なった物件が 1 件、現地の事業所に回収して頂いた物件が 1 件で、現地調査のみで回収しなかった物件が 1 件であった。

回収作業については、参加する委員の負担が大きいこと等から、これで終了することとした。

某ビル（H25. 4. 24）	スプリンクラーヘッド、流水検知装置、消防隊専用栓、フォームヘッド、二酸化炭素制御盤、選択弁、操作箱の回収を実施。
某ビル（H25. 5. 31）	スプリンクラーヘッド、流水検知装置、消火栓開閉弁、二酸化炭素制御盤、選択弁、操作箱の回収を実施。（現地の事業者が回収した）
某ホテル	現地調査を実施したが、対象品が少なく回収は実施しなかった。

3. 回収サンプル評価試験

(1) 流水検知装置

日本消防検定協会の分場試験場において、委員会の評価実施グループメンバーが参加して流水検知装置の評価試験を 2 回（8 月 30 日及び 1 月 22 日）実施し 20 台を試験した。

今回の試料では、圧力スイッチへの流路の詰まり、耐圧試験や作動試験で性能を満足しないものがあった。

(2) スプリンクラーヘッド

回収したスプリンクラーヘッド 4 物件 174 個について評価試験を実施した。ごく一部のサンプルで規定時間をオーバーして作動したものがあつた。

(3) 消火栓開閉弁

回収品で評価試験していなかった 6 台について試験を実施した（12 月）。6 台とも耐圧試験、漏水試験で性能を満足しなかった。

(4) ガス系制御盤、操作箱

制御盤は 3 物件で回収した 3 面について会員会社にて評価試験を実施した。全体的に継電器の接触抵抗が増加していた。

操作箱は制御盤と同じ物件から10台回収し試験を実施した。銘板や表示板の交換が必要なものもあったが継続使用可能という結果であった。

(5) **ガス系選択弁**

制御盤と同じ物件から9台回収し評価試験を実施した結果、パッキン類の交換等は必要だが継続使用可能という結果であった。

4. **その他**

(1) **(一財) 日本消防設備安全センター委員会参加**

消防用設備等の経年劣化等に対応した点検方法等検討会に、本委員会の委員長が委員として参加。

経年劣化等に適切に対応するための方策を検討する目的の検討会で、点検結果情報の収集、事故情報の収集などを行い、経年劣化に対応した点検方法のあり方や、的確な点検の推進に必要な事項の検討を進めることが検討事とされている。任期は2年以内。

(2) **活動結果のまとめ**

5年計画で進めていた本委員会だが、その最終年度となった。

まだまだ継続して調査すべき内容も多くあるが、一旦これまでの活動についてまとめを行い、その後、継続して作業すべき内容について検討を進める予定である。

以 上